

ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！

# NPOみなまた



No.58 (2020年1月)



## 火災避難訓練のあとに記念撮影

火災避難訓練を行いました。冬は1年でいちばん火事が増える季節です。混乱の中でも落ち着いて適切な判断が出来るようにするためには、日頃から十分な訓練をしておくことが大切なので毎回職員は必死です。入居者様の命を預かる者として、スタッフ一同頑張ります。

グループホーム ふれあいの家



発行：NPOみなまた 発行責任者：中山 裕二 ☎867-0045 水俣市桜井町2-2-20

☎0966-62-9822 fax0966-62-1154 Eメール：npo@minamata.org <http://minamata.org/>

題字：江口 睦美

(カット：岡本あき)

# 新しい年を迎えて

NPOみなまた代表理事 中山 裕二

今年、東京オリンピックが開催されます。一流のアスリート、パラアスリートによる超一流の競技が楽しみです。

ところで、オリンピックの日本開催は2度目で1回目は1964年。

この1回目のオリンピックが決まったのは、1959年5月、ミュンヘンで開催されたIOC総会でした。この年の4月には日本のOECD加盟が決まり、日本が文字通り「先進国」として国際社会、特に1960年の日米安保条約改定を前に、アメリカから認められるかどうか、という時期でした。



同じ頃、水俣では1956年に公式確認された水俣病が、原因究明や患者対応をめぐる様々な動きが起きていました。そして1959年12月、チッソは、後の裁判で公序良俗に反するとされた「見舞金契約」を当時の県知事や国会議員、市長などを総動員して患者に押し付けました。そのことをもって、水俣地方で100名余りが、り患した原因不明の疾患として歴史から抹殺されました。水俣病をつぶしたチッソの背後に、何としても東京オリンピックを招致し、高度経済成長という「国策」をすすめるという、時の政府の強い意思があったことは間違いありません。

50年以上を経た2度目の東京オリンピック招致の時、水俣病発生当時と同じことが福島第一原発事故で繰り返されています。国策として強引に進めてきた原発政策を、破綻していることが明らかであるにもかかわらず推進しています。また東京オリンピック招致にあたって安倍総理は、汚染水など放射性物質は完全に管理下にあると大ウソをつきました。

オリンピックを純粋なスポーツの祭典だけでなく、国の威信、経済成長の大きな要にすることをめざし、水俣病は「なかった」ことに、福島の放射能汚染はもう安全で事故は「なかった」かのように、したかったのだと思います。

しかし、立ち上がった患者によって水俣病の裁判は、1969年に熊本地裁に提訴されて以来、途切れることなく今も続いています。これまでの裁判のたたかいの中で、国の認定基準の誤りを指摘し、患者切り捨て政策を実質的に転換させ、6万人をこえる被害者救済を実現してきました。たたかいの前進の中で被害の広がりを明らかにしてきたのが、水俣病の歴史です。

いま水俣病不知火患者会は、熊本、大阪、東京の地方裁判所で、原告1,766名でノーモア・ミナマタ第2次訴訟を、水俣病被害者互助会は、熊本地裁で認定義務付け訴訟を、福岡高裁で国賠訴訟をたたかっています。

これらの裁判は、今年前半に福岡高裁が判決を出すのを皮切りに、再来年にかけて判決が連続します。

公式確認から60年余りをへて、総決算ともいうべき時代に入ります。我が国が、過去の歴史に学ぶ国になっていくには、水俣病解決は重要な一歩だと思います。

1964年のオリンピック、私は小学校の教室に設置されたばかりのテレビにくぎ付けになっていました。先人たちの水俣病の長いたたかいの歴史を重ねながら、あらためて「あったこと」を「なかったこと」にしてはならないと強く思います。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

## 2022年3月の勝利判決を目指し、力強く前進しよう！

ノーモア・ミナマタ第2次訴訟

弁護団長 園田 昭人

熊本地裁の裁判は、2022年3月の判決に向け手続きが進んでいます。本年は、待ちに待った医師尋問が始まります。

2020年1月29日、3月23日の両日、高岡滋医師の証人尋問が実施されます。高岡滋先生は、県民会議医師団の中心メンバーとして、長年にわたって数多くの水俣病患者を診察するとともに研究を重ねてこられました。誰よりも多くの水俣病患者を診てこられた医師であり、ノーモア・ミナマタ第1次訴訟においても証言をされています。弁護団は、高岡滋先生の2回の証人尋問で、共通診断書の正しさ、被告国、熊本県が不当に被害を切り捨てていることを徹底的に明らかにする決意です。病像班を中心に尋問の準備を着々と進めています。また、6月19日には被告国、熊本県が申請した医師の証人尋問が実施されますが、机上の空論を述べている点を追及したいと考えています。



弁護団は、さらに疫学の津田敏秀岡山大学教授の証人尋問もこの夏頃には実現させたいと考えています。疫学は被害の広がり方を明らかにするうえで重要な科学ですが、これまでの水俣病裁判ではあまり活用されてきませんでした。弁護団は、詳細で分かり易い尋問により、疫学的知見を正しく活用すれば、対象地域外にも被害が広がっているといえることを明らかにしたいと考えています。一定の数の診断医や原告の代表の方の尋問も順調に実施されるよう準備を着実に進めたいと考えています。

2019年12月24日の13陣提訴により熊本地裁の原告は、1,550名になりました。東京地裁では82名、大阪地裁では134名、新潟地裁では147名の仲間が裁判をたたかっています。これらの裁判も山場を迎えています。

被告国、熊本県は、健康調査を実施しないままに、対象地域外には水俣病被害者はいない、新有病率調査は信用できないなどと強弁しています。被告チツソは、責任を全うしないままに分社化の完成を目論んでいます。このような被告らの不当な対応を改めさせ、未救済被害者の救済を実現するためには、裁判で勝利する他ありません。

本年は、全体解決につながる最初の勝利判決を得るための正念場の年といえます。原告団と弁護団が一丸となって諸課題に取り組む必要があります。また、医師団、支援の皆様、「水俣病被害者とともに歩む国会議員の会」の先生方の協力も得て、国に対し解決を強く迫っていく運動も重要となります。公正判決を求める署名活動にも全員で取り組む必要があります。

一枚岩の団結のもと、2022年3月の勝利判決を目指して力強く前進しようではありませんか！



## 今年も明るく元気に！

新しい年を元気に迎えました。今年もよろしくお祈いします。

書き初めでは、新年にまつわる言葉や希望や願いを込めて、みなさま、真剣に取り組まれています。お歳も感じさせず力強い筆さばき。

今年も明るくお元気で！



## よろしくお祈いします

24時間営業とも言えるグループホームですが、日勤だけという働き方をしている人もいますが、逆に、夜勤を主に行い昼間は自由に農業を行う人もいます。また、お子さんがいる女性にとっては、短時間や昼間だけ働いたり夏休みなどには、お子さんを連れて勤務する職員の姿もあります。年齢もあまりハンデになりません。心身が健康であれば70代のアクティブシニアも活躍しています。20代から60代・70代まで様々な働き方で入居者様の暮らしを支えています。

### 2019年度に新たに入職したみなさんから一言（その1）

#### ♡この仕事を選んで良かった…

54歳で転職を考えていた時にふれあいの家の話があり、今までの経験を生かせるかも知れないと思い選びました。

入居者様の笑顔と「ありがとう」の言葉が私を支えてくれています。失敗したときも怒られず、また受け入れてくれる。0からスタートした介護の仕事ですが皆さんの笑顔に元気をもらっています。

一人ひとりに出来るだけ喜んでもらえるような介護がしたい。すごく大変な仕事ですがこの仕事を選んで良かったと感じています。たくさん色々な勉強をしたいです。

ふれあいの家 岩坂 晴美（介護士）

#### ♡まだまだ介護について学びたい…

介護の仕事に興味があったので、病院で介護の仕事をしたところ自分に合うと思い、長年、介護の仕事が続いています。

日々、入居者様から「ありがとう」と言われたとき、また、夜勤の時に朝ご飯を作りますが、おかずや汁ものなど、残さずに食べて下さることがとても嬉しいです。

介護福祉士の資格を取ってまだまだ介護について学び、頼られる介護士を目指しています。

ふれあいの家 柏木 加代（介護士）



#### ♡一人ひとりに寄り添って…

家族が介護職であることも影響していると思いますが、介護という仕事に興味をもち今に至っています。介護はこれからも求められる職業であり自身にも役立つ仕事だと思っています。たとえば、人生の大先輩の心に触れることや、昔の話を聞くことなど、他の仕事では決して味わえない大切な学びです。利用者のかたやご家族に「ありがとう」と言われた時は自分が役に立っていることが自覚でき、やり甲斐を感じることができます。

これからもお一人おひとりの気持ちに寄り添った介護ができるよう頑張っていきたい。

キトさん家 内田 淳一（介護士）

#### ♡入居者の笑顔が介護者の笑顔…

三郎の家ってどんなところか知りたくて働き始めました。早6ヶ月になります。入居者さんの素敵な笑顔を見たとき、食事の時や楽しそうな会話を聞いたときなど私自身とても嬉しい瞬間です。これからも、入居者のお一人おひとりがその方らしい暮らしをまっとうできるように少しでもお手伝いできたらと思っています。

三郎の家 坂本 智恵子（准看護師）



# 水俣病と向き合いたい俳句

林田 ぶし

突然「NPOみなまたニュースに俳句を書きませんか」と電話がかかってきました。どこから私のことが伝わったのかと思いましたが、こっそりやっていることでもないので乗せられてしまいました。

チッソに入社したのは昭和28年4月、15の春。メールボーイ5人採用の1人です。メールボーイは1年間。チッソ在籍は21年間です。入社した年、社員（高卒以上）と工員の格差是正を求める闘争があり、レッドパージ以来初めてというストライキにいきなり遭遇しました。2年目から5人は各課に配属されて、私は技術部分析課配属。すぐ横には25m競泳が4～5コースできるほどの貯水池（水俣川から取水し、循環水も回収再供給・水泳大会も行れた）があり、ハヤも棲んでいて簡単な仕掛けでもすぐ釣れました。仕事は原料鉱石や製品の規格分析でした。

（チッソ工場内）

☆貯水池に背折れ目つぶれハヤ数多

☆汗の作業衣脱ぐや水銀ポロポロ（体験）

☆冷じや深夜せっせとへドロ吐く

この状況は昭和32～5年頃だったでしょうか。「奇病」が漁村に相次いで発生していった時期でもあります。

定時制高校を卒業後、労働組合の青年婦人部役員をしていた頃、賃上げや一時金闘争など執行部が多忙な時期、青年婦人部役員にも臨時専従がありました。年末闘争で私も専従。団体交渉で執行

部が出払って事務所当番をしていた時、水俣病患者互助会から「正門前の座り込みにテントを貸してくれ」と申し込まれ、私は「後で執行部には報告する」ことにしてテントを貸しました。しかし団体交渉から帰ってきた執行部から「何ちゆうことするか。勝手なことはするな。取り返してこい。」と怒られました（組合内に組織分裂の動きが活発になっていて微妙な時期でもあった）。組合に無断で貸し出した私のミスです。取り返しに行った記憶はありませんが、後に公序良俗に反するとして弾劾された、かの有名な見舞金契約の時です。組合は安賃闘争で分裂、後に我が組合は水俣病裁判闘争に参加、証人に立って、チッソの利益追求の過酷な現場実態を生々しく告発しました。

☆糶絶えてト口箱攫ふ空つ風

☆子も萎えて隠され震へ破れたたみ

☆大晦日飢えの座りこみ知事剥がす

☆涙金飲まさる赤貧座り込み

1950年代～70年代はうたごえ運動、勤評反対、警職法・三池・下笠ダム闘争そして沖縄返還要求平和行進・安保闘争・チッソ安賃闘争等々、ストライキを構えた労働組合の闘いが全国規模で広がっていった頃です。レッドパージ期の体験はありませんが、意義ある青春時代を体験したという誇らしい想いは今なおあります。

第3回水俣現地調査だったと思いますが、協立病院でペインメーター検査が実施され、患者と健常者の比較が試みられました。私は健常者のサン

ブル。ところがこのサンプル、メーターが危険値で自動停止するまで無反応、両手両足を測っても同じ。藤野先生から「あんた間違いなか」と、すぐさま第三次訴訟原告団に引き渡され原告となりました。

#### ☆水俣現調ペインメーター振り切る夏

#### ☆風薫るノーモアミナマタ慰霊の日

私と俳句との出会いは10才年長の田村涼風さんとの出会いです。定時制高校3期生として同級生。同窓生の長い結いの中で「俳句やらないか」と水をむけられ、『市報』に「水俣俳句初心者教室」の呼びかけを出して14～5名で一步を踏み出しました。うまくなるもならむも21年。現在は俳句会も高齢化の波かぶり、昨年から「水俣俳句会」に一本化。そして涼風さんも90才超え、いやも応もなく会長・事務局・財政なんもかんも一人占め。

安倍政権が国政を私物化して、靖国政治への足取りを高鳴らせているとき、水俣病闘争も安倍政権引きずり下しのたたかいの中でこそ、道も開かれるのではないのでしょうか。

#### ☆大雪や討入りしたきところあり

#### ☆木枯や懇願漁民に有刺鉄線

私も早や82才。足はおろおろ、歯はガタガタ、眼は朧というこの頃です。

手指・足のカラス曲がりやしよっちゅう。時に睡眠中に突然襲ってくる、ふくらはぎのカラス曲がりは強烈で、かなりの時間どうしようもない激

痛、3～4日痛さを引きずります。

私の水俣病との係りは1970年代はじめ頃から。又は前記貯水池のハヤを釣って食っていた頃から？

チッソでは「奇病」のことは禁句状況でしたが、在籍中から休みをとって「患者掘起こし」に頻繁に参加していました。自分の集落から「奇病」が出たとなれば集落の破綻につながると恐れられていた時期で、「奇病持ち」はひた隠しにされていた頃です。津奈木・赤崎・平国・計石・女島・鶴木山等を藤野先生や幾人かの方々と拒否されても拒否されても「お三度」をふんで、ようやく被害者に逢えることもあるという時期。女島で、当時としては特別接待をされたのだと思いますが、開いたキビナゴを天ぷらにして、砂糖（食いつめの中で貴重品）をまぶして出されたことがあります。食べていいものか迷いましたが、応えなければ信用されないと頂いたこともありました。

☆漁の長<sup>おさ</sup>姜えて潤びて冬の底

☆真夜の雷<sup>らい</sup>カラス曲がり脚振る

☆水俣に降り積む雪や鎮魂<sup>たましずめ</sup>

☆箸の手のひきつり汁椀笑ふ夏

☆亀鳴くや病歴枰をはみ出せり

「靖国政治」への動き急

☆忘れえぬ機銃掃射受けし夏

☆はらからは濃霧に消えて征ったきり

☆特攻帰還<sup>もた</sup>黙を通して麦を踏む

地球温暖化も生物存亡の危機の域

☆人間も絶滅危惧種油虫

※あっち飛びこっち飛び思いつくままに。



## 2019年度に新たに入職したみなさんから一言（その2）

### ♡信頼される介護士に

知人の紹介で魅力を感じこの仕事を始めました。日々、入居者の方と笑い合えることに幸せを感じています。さらに信頼されるような介護士を目指しています。

ふれあいの家 田中 智子（介護福祉士）

だいたときが一番嬉しく感じる瞬間です。私が出来ることを精一杯、頑張っていき、思いやりの心で接したいです。

ふれあいの家 平田 美智子（看護師）

### ♡思いやりの心で

私が5年生のとき、父が病気に罹り入院生活を繰り返すようになりました。その時に介護する母の姿を見てこの仕事を選びました。

入居者様の笑顔と「ありがとう」の言葉をいた

### ♡介護の仕事が好き

介護の仕事が好きです。自分が嬉しいと感じる瞬間はおじいちゃん、おばあちゃんが笑顔になったとき。安心して楽しく笑顔をたくさん作っていただけるような介護士になりたい。

ふれあいの家 福山 千尋（介護福祉士）

### 管理者に就任して1年

2004年に法人に入職し2009年からは三郎の家に異動になりました。昨年の2月に管理者に就任し早1年になります。まだまだ、駆け出しで未熟者の私ですが、明るく頼もしいスタッフに助けられ、ご利用者様の笑顔に支えられ頑張っています。

三郎の家は開設して来年で20年。私は4代目の管理者になります。設立当初からかかっている「人権・安心・共生」の理念を貫き、入居者様への“寄り添うケア”をさらに向上させ、地域、行政の皆様と連携しながら愛される施設になるよう、精一杯励んでまいります。

皆様の温かいご指導ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。



美味しく食べていただけるように！

三郎の家管理者 榎木丸 晃

### 水俣・熊本みらい基金（つんなう基金）助成事業

水俣・熊本みらい基金は、水俣薄原太陽光発電所（全国ご当地エネルギー協会）とグリーン未来ソーラー（グリーン・市民電力）の売電収益の一部を活用して、地域再生に役立てていくことを目的としています。今回は第1回目の助成金申請にあたり22団体が申請し18団体が採用されました。当法人もふれ



あいの家が地域のみなさんと一緒に取り組んでいる「たて道まつり」の活動が採用され助成金をいただきました。今年5月に行う予定のおまつりに使わせていただきたいと思います。

### 編集後記…

久々のニュース発行になりました。来年は法人設立から20周年となります。多くの皆様のお力添えをいただきながら何とか運営することができています。心から感謝申し上げます。